



かりん Vol. 4

1997年6月  
東京工芸大学女子短期大学部  
華輪会

このところご無沙汰になっておりました華輪会会報を発行する運びとなりました。この会報を通じて華輪会の活動をご報告するとともに皆さまからのご意見を頂き今後の指針として行きたいと思っております。

### 第13回 華輪会総会 (櫻井よしこさん講演)

昨年7月14日(日)新横浜プリンスホテルにおいて総会が開催されました。出席者350名と多くの方にご参加頂きました。第1部の櫻井よしこさんの講演はメインテーマを”自分で考えることの大切さ”に絞り、ごみ処理問題、薬害エイズ問題、自動車を例とするリサイクルに対する姿勢の日本とドイツの比較、日米安保条約、ヨット転覆事故たか号など話題豊富にわかりやすく進められました。

講演の冒頭に櫻井さんから”特にみなさんには自分で考えて頂きたい。”とのメッセージがありました。この華輪会は、女子短大の同窓会ですのでお子さんを育てるお母さん、また、お母さんになる可能性のある人たちの集まりです。子供を育てるという大変な事業を成し遂げるとき、お母さん自身が考える。社会には色々な流れがあるけれども漫然と流れに乗り、考えることをしなくなってしまうはいけません。情報のアンテナを張りめぐらしお母さん自身で考える様になっていただきたいと思っています。と言った内容のご発言があり、講演、そして質疑応答になりました。

みなさん引き込まれるように講演を聞いていらしたので講演後の質問も活発で、残念ながら途中で時間切れといった状態になってしまいました。櫻井さんは第1部講演終了後、立食パーティーにもしばらくご参加下さいまして、第1部時間切れとなり質問出来なかった方からの質問に答えて下さったり、快く写真撮影をして下さったりとテレビで拝見するイメージそのまま、それ以上にとってもすてきな方でした。

第2部の立食パーティーには新学長本多健一先生のご出席を頂き、ご挨拶を頂きました。学科長佐藤先生他6名の先生方もご出席頂き、しばし学生時代を思い出す楽しい時を過ごすことが出来ました。このところ数年続けてお世話になっている新横浜プリンスホテルさんのサービスも行き届き、おいしく快適な中でお友達との交流を深められたことと思っております。

今後も色々な企画を携え年1回の総会をより魅力的なものにしていきたいと役員一同頑張っております。今回ご参加頂けなかった方も次回よりご参加頂ければ楽しい時間をお約束しましょう!?

今年は講演者に小林カツ代(料理研究家)さんをお招きしてあります。テレビ等でも単に料理だけにとどまらない楽しいお話しでご存知の方も多いためと思います。今回の講演もどのようなお話しをしていただけるのか、お楽しみに!

## 華輪会総会開催にあたって

皆さまご存じの通り、現在華輪会のメインの活動は年1回の総会に集約されております。年に1度のことですので是非皆さまにご出席頂きたいと考えておりますが、女子短大という性質上、結婚、妊娠、出産、育児、また転勤、海外勤務など色々な理由で総会に参加したくても出来ない方々がいらっしゃるのではないかと考えております。

色々な理由の中でも出産は女性にしか出来ないことですので当事者の方々のご健闘をお祈り申し上げる次第ですが、以上のような理由で参加したくても出来ない方をなるべく少なくしたいと華輪会では考えています。そのため、ベビーベッドをおいた部屋を用意するなど考えつく範囲で努力しております。近年ではベビーカーにお子さん連れで立食パーティに出席される方、ご主人が赤ちゃんを抱いて外で待っていらっしゃる方（中にお入り下さいと声をおかけしたのですが照れ屋のご主人だったようです）など参加に伴う多様化がみられています。多くの方に総会に出席していただきたい立場からは大変喜ばしいことと考えています。今後も色々な活動に皆さまのご参加をお待ちしております。

### 出席にあたってのルール

華輪会は東京工芸大学女子短期大学部の卒業生を正会員とする同窓会です。言うまでもなく大人の集まりです。総会ではお友達との語らいはもちろん、先生方や講演者のお話を聞くことを楽しんで頂くことを主眼としております。お子さん連れでの参加は歓迎致しますが、お子さんが騒ぎだしたら講演会場から席を外して他の方々の迷惑にならないように頂きたいと思っております。そのためにベビーベッド設置の別室を用意させて頂いております。華輪会主催の催し物に限らず、コンサートや観劇でも同じマナーが求められておりますので特にこの会報上で申し上げるまでもないかもしれませんが、今後卒業生＝華輪会参加者の増加、多様化を考え改めてご確認させて頂きます。

基本的なルールを踏まえた上で、より魅力的な催し物を考えて行くつもりでおりますので、皆さま楽しくご参加下さいますようお願い申し上げます。

### 保育について

今年も一昨年同様に、有資格者による保育を実地します。講演中は講師や他の方の迷惑になりますので、お子さんは出来るだけ保育室をご利用下さい。費用は無料ですが事前申込といたします。返信用はがきに保育を希望するお子さんのお名前、ふりがな、性別、生年月日を明記して下さい。おもちゃなどはこちらで用意致しますが、ミルクや離乳食、おむつ、着替え等は全てご持参下さい。（持ち物には全てご記名下さい。）当日保育受付では同意書に記入をお願いします。パーティでは会場内で一緒に会食頂けます。なお、おむつ換え等保護者同伴であれば、申込無しでご利用頂けます。

ご質問、はがき投函後の変更などございましたら  
下記担当者まで、直接ご連絡下さい。

簡 奈津子

今回から卒業生のみなさんからの一言を連載したいと思います。同じ短大を卒業し各方面へ飛び立った私たち。ちょっと立ち止まって他の方のお話しに耳を傾けてみませんか。

第1回は第4期ご卒業の佐賀井美都さんに毎日の生活をうかがってみました。ワーキングマザー、妻と一人何役もこなし、ご活躍の佐賀井さんも仕事と子育ての両立には悩んだ時期もあったようですが、そんな卒業生の“今”をお願いしました。

4期卒業生 佐賀井 美都

毎日どうしてこうも忙しいのか、とおもいますね。殊に子供が生まれてからは休日もありません。病気もしょっちゅうですし、連日の通院には泣きたくなくなります。 ”ワーキングマザー”なんて言葉は格好いいですけど、こんな生活をしていたら気が張っていますもの、他から見たらバリバリママ以外の何者でもないでしょうね。

朝6時30分起床、子供を着替えさせながら朝食づくり、布団をあげて時には洗濯までして7時50分には家を出て保育園経由で出勤。夕方は5時すぎに研究所をあとにして保育園へ。そのまま隣の耳鼻科まで毎日の通院……。1日はあつと言うまですることは山ほどあります。それでも仕事を続けていきたいと思うのは、仕事をするのが自分にとってとても自然なことだと思えるからでしょうか。

現在勤務している研究所は短大卒業から11年目になりますけど、入所した当時はワープロ、ファックス、コピーが三種の神器なんて言われていて、机にはまだ電電公社の黒電話が2人に1台ずつしかありませんでした。それが現在ではいろんな意味で変わったと感ずます。

結婚退職はめっきり減って出産、育児を今までの生活に取り込んでいく人が増えましたし、私の周りにもそのような方が大勢(?)いらっしゃいます。同じ境遇の人が集まればそこに社会が作られていくのかもしれませんが、私の場合はたまたま現在の職場がそのまま自分の住みやすい環境となり社会になっていた気がします。

子供には元来すばらしい適応能力と観察能力が備わっていると思うことがあります。ある日突然言葉を発したり、新しいことが出来るようになったり。とても好奇心が旺盛なんですよ。母子で家に閉じこもって遊ぶより保育園はずっと楽しそうですし、そこにはちゃんと子供の世界なり社会があるようなのです。そんなことに気づいてからは ”何事も母親である自分がしなくては ” と思うことにすら違和感を覚えたりしています。

もちろん、母親がいつもそばにいて安心感を与えることは健やかな成長には欠かせないものですが、私の人生と子供の人生は糸をよる様に絡み合っていて、時が経れば過去となった現在も見えてくるのでしょうか、今は何をすべきなのか、走りながら考える毎日です。仕事は私の一部で、子供の気持ちも無視できるものではありませんが、協力してくれる夫とこの家族がある限り、私自身が ”わたくし ” であることができる気がしております。

## 菊池元学長永眠

短大開校よりお力を尽くされた菊池真一元学長が、去る2月15日87歳で肺炎のためご永眠されました。

敬虔なクリスチャンでいらした元学長は私達学生を広くあたたかい目で見守って下さいました。ここに哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。

## 編集後記

簡単な内容となった今回の会報ですが当面は年1回の発行とし、総会開催通知と合わせて送らせて頂きます。次号からは紙面充実、在学生のこと、役立つ情報等も掲載し両面印刷に出来たら、と思っています。アイデア・ご意見また投稿などありましたらご一報下さい。末筆になりましたが突然の寄稿依頼を快くお引き受け下さった佐賀井さんに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

宮永 悦子

かりん 第4号  
発行日 1997年6月 発行者 宮永悦子